会　議　録

会　　議　　名		令和８年度（2026 年度）第２回八王子市社会福祉審議会　高齢者福祉専門分科会
日　　時		令和８年（2026 年）６月 29 日（月）14 時 00 分～16 時 00 分
場　　所		八王子市役所本庁舎　801 会議室
出席者氏名	委　　員	杉原陽子委員（会長）、塚本恵里香委員（副会長）、荒井雄司委員、礒部剛久委員、井出勲委員、尾嵜敏夫委員、川津明弘委員、五藤篤委員、小林秀利委員、下田直啓委員、添石遼平委員、田中裕之委員、千種康民委員、平澤進二委員、佐藤一広臨時委員
	事　務　局	福祉部　　菅野匡彦部長 高齢者いきいき課　白石利和課長、齋藤義明主査、西野堅一郎主査、濱田嘉夫主査、三田尚愛主査、森山慶祐主任、安樂桃花主事 高齢者福祉課　太田敏弘課長、久保貴司課長補佐兼主査、波多野直子主査、河合佳代子主査、 介護保険課　今川圭吾主査 福祉政策課　元木博課長、吉井文隆課長補佐兼主査
欠　　席　　者		大川富美委員、大野教子臨時委員
次　　第		１　議題 （１）「高齢者計画・第 10 期介護保険事業計画」の基本的な考え方及び事業見直しの方向性について （２）個別事業の見直しの検討状況について ２　その他
公開・非公開の別		公開
傍　聴　人　の　数		１名
配　付　資　料		次第 高齢者福祉専門分科会委員・事務局名簿 資料１　「高齢者計画・第 10 期介護保険事業計画」の基本的な考え方及び事業見直しの方向性について 資料２　LIFE・Study 概要（令和 8 年 1 月 20 日市長記者会見資料抜粋） 資料３　通所介護の動向と八王子市の現状 参考資料１　介護予防・日常生活圏域ニーズ調査_単純集計表（速報値） 参考資料２　在宅介護実態調査_単純集計表（速報値） 参考資料３　市民意識調査_単純集計表（速報値） 参考資料４　令和 8 年度第 1 回高齢者福祉専門分科会後に委員より寄せられた意見書の内容

会議の要旨	
	開会 **１　議題** **（１）「高齢者計画・第 10 期介護保険事業計画」の基本的な考え方及び事業見直しの方向性について** 【事務局から資料1をもとに説明】 【委員から議題について寄せられた意見は次のとおり】
千種委員	早期に実施することで計画の施策全体への波及効果が高まるような取組を見極め、最優先で実施するようにすべきである。例えば「時短」に関する取り組み。文書作成業務の効率化などの時短施策を早期に実施することで、その後の事業全体を円滑に進めることができる。
塚本副会長	外国人高齢者など、多様な高齢者への対応に市が向き合っていく、ということがわかるような表現を入れて欲しい。多様な高齢者への対応は 9 期計画の考えにも含まれているという説明があったが、第 9 期計画の表現では多様な高齢者に向き合っていくという市の姿勢が言葉からは見えづらく、市が一歩踏み込んだ対応をとるということがわからない。 また、八王子市には多様な資源や取組が存在する一方で、それぞれの主体が独自に運用しており、全体像が十分に整理されていない現状がある。第 10 期計画では、これらの資源・取組を、地域単位や市全体の単位で整理する機会を設けて、今後の施策展開に活用していくべきである。資源や取組が整理されれば、事業者や市民の方々も自分たちの資源をしっかりと認識できるようになる。
田中委員	施策目標には、人生の最終段階に関する目標をどこかに入れると良い。現在の施策目標2では、「在宅」という言葉で強調されているが、終末期には病院や介護施設に居たいということを希望される方も多く、在宅に限らない。人生の最終段階で、本人の望む環境で最期を踏まえられるということが目標に入ると良い。
杉原会長	今後身寄りのない高齢者もどんどん増える。そういう方々のエンディングの場は、家ではない可能性が高いだろう。そうなると、施策目標の文言も変わってくるのではないか。
尾嵜委員	この計画は、広く「高齢者」がより安心して暮らせるようにするための計画であって、

	この「高齢者」には外国人や障害者など様々な高齢者を含んでいる。個別の多様な高齢者に関することを詳細に計画で盛り込む必要はないのではないか。
佐藤臨時委員	身寄りのない高齢者への課題を整理し、そこに対する具体的な資源開発を行う、という形の目標があるとよい。ショートステイ中の発熱時の通院対応など、身寄りがないことで誰が対応するのか困る事例があり、現場では高齢者あんしん相談センターや市が業務外で対応している状況がある。緊急時の対応、入院時の手続き、終活、死後事務など、場面ごとの課題を整理し、身寄りのない高齢者への具体的な資源開発を行うという形を目標として位置付けてほしい。 また、計画における評価の軸について。量や件数による評価だけでなく、質による評価も非常に重要。ウェルビーイングやフレイルも含め、主観的な要素が大きい。一人一人の価値観や「こうありたい」という思いに資するため、本人らしく望むことを叶えるためのプロセスの評価や、最終的な主観の評価という軸を増やしていく手立てがあるとよい。
礒部委員	9 期計画の事業評価について。てくポ事業については、目標は 2 万人とあるが、市の 60 歳以上の 19 万人であり、目標値が低い。 わくわく事業については、実施場所も市内 3 か所に限られており、遠方に住む高齢者にとって参加しにくい状況がある。二重丸の評価は疑問である。 「はちプロ」や「食楽訪問」については、どのように実施され、どのような課題があり、現在どのような状況にあるのかが、市以外には分かりにくい。取組内容や成果を市民に分かりやすく発信し、実態が見える形にしてほしい。。
尾嵜委員	9 期計画の評価について。個別事業の自己評価では◎や○が多く、数値も改善しているにもかかわらず、全体の成果指標の評価では「×」となっている点がわかりにくい。
杉原会長	特にここの根詰まりを直すと後がスムーズみたいなものがあれば、それは計画の重点課題として取り扱うべきである。
千種委員	計画のポイントをまとめるにあたっても、人間の恣意的さが入る。AI を使えば、AI が網羅的に拾ってくれる。業務の効率と実効性が非常に上がる。AIで第 10 期計画の重点課題を検討したところ、「相談支援体制の抜本的再編と拠点化によるチーム対応」「AI・ICT による事務相談業務の省力化」「介護DXを縦串とした生産性向上とサービス提供体制の維持」「EBPMに基づいた予防型福祉への転換による需要抑制」の 4 項目が抽出された。

	（２）個別事業の見直しの検討状況について 【事務局から資料2をもとに説明】 【千種委員から生成AIの活用方法について紹介】 【議題(2)について委員から寄せられた意見は次のとおり】
塚本副会長	はちまるサポートが拠点化により数が減るとなるとその業務負担が高齢者あんしん相談センターに及んでいく可能性がある。
礒部委員	市民目線でみると、はちまるサポートがあって、高齢者あんしん相談センターがあって、保健福祉センターとなるとどこに相談すればいいのかわかりにくいので、統合するとよい。
川津委員	認知症サポーター養成講座や認知症月間の取組について、地域の高齢者に十分認知されておらず、認知症理解の浸透につながっているのか疑問である。 認知症サポーター養成講座で認知症だけを学ぶのではなく、子どもの頃から高齢者や福祉全般について学ぶ機会を充実させることが重要である。 学校教育とも連携し、八王子ならではの福祉教育や地域での学びの仕組みを進めてほしい。
千種委員	認知症サポーター養成講座が不要ということではなく、講座の効果を高めるためのPDCA が十分に機能していないことが問題である。地域で成果を上げている団体等と協働し、その実践的な手法を取り入れながら、講座内容や実施方法を改善し、より実効性の高い取組としていくべきである。
	２　その他 【事務局から次回会議の日程等の事務連絡を説明】 **閉会**